

2026年2月

MITOMI FUKUSHIKAI

三富福社会通信

Vol.26

(社福)三富福社会

広報部 発行

山梨市三富川浦 2203

☎0553-39-2714

<https://www.mitomi-fukushikai.com>



特集：「ハロハロ二番館と地域生活」

■中核人材の役割

■グループトーク ～相談支援部のトーク～

■2025年度 第4回法人研修 虐待防止研修の実施

etc・・・



2

2026

今から25年前、地域にお住いの障害児者のご家族を支えるため山梨市下栗原に「ファミリーサポートハロハロ」が誕生しました。それから平成20年に「ハロハロ二番館」と名称が変わり、場所も現在の山梨市東後屋敷に移転しました。法人の居宅支援部門であり、地域で幅広く支援を展開してきたハロハロ二番館の活動をご紹介します。

ハロハロ二番館と地域生活



管理者 齊藤 実

ハロハロ二番館では居宅介護、行動援護、重度訪問介護、同行援護、短期入所、日中一時、移動支援、短期入所という8つの事業を提供しています。ハロハロ二番館が開設されたのは平成13年でした、当時は制度も整備されていませんでしたが、徐々に法整備も進み、色々なサービスが提供できるようになり、いま二番館では8つの事業を提供しています。

二番館で提供する事業は、生活介護や施設入所、就労A・Bといった事業などとは違い、生活の中であまり柱になるサービスではありませんが必要なサービスです、サービスの利用では事業所が利用する時間を決める事はありません、利用者が必要とする時間に事業所が合わせるのです、あくまでも利用者と利用者の生活が主体です。二番館は生活するうえで必要な事だけではなく、余暇も含めてお手伝いしています。その内容も様々です。通院・市役所での届け出・買い物、健康維持のための運動・リハビリ・趣味の活動など、そりゃ生活していればいろんなことが起こります。必要な時に必要なサービスを提供し、在宅での生活を続けていけるようお手伝いをしています。当法人の法人理念の最後には「我々の使命は特別なニーズに応えるという事である」とあります、二番館の開設当時は不文律だったものが明文化されたと思っています。今後も二番館は求められるニーズに可能な限り応えて、地域で生活することをお手伝いしてゆきます。



今回は二番館職員の一日の動きを紹介します。現在の二番館職員は18名の職員が在籍しています。一日の中で13名~14名の職員が、年齢問わず25名~35名の利用者さんのニーズに沿った支援をしています。

**A職員
の一日**



美術館の見学付き添い【移動支援】



Dさん宅にて見守り

【重度訪問介護、必要時は喀痰吸引】



運動のため近隣の散歩支援

【同行援護】

**B職員
の一日**



Eさんの身支度支援【身体介護】



Fさんの外食支援【移動支援】



通院中の手伝い【通院等介助】

**C職員
の一日**



日用品の買い物支援【行動援護等】



公園でサッカーなど運動

【移動支援・日中一時等】



公園で遊ぶ

【移動支援・日中一時等】

ハロハロ二番館は日々さまざまなサポートをしています。病院受診、買い物やスポーツ観戦などの外出、冠婚葬祭の付き添いなど幅広く支援をしており、ニーズに添った支援を心掛けています。地域の皆さんに当事者さんのこと、当事者支援のことを知ってもらい、一緒に助け合い、成長していくのが二番館です。

今はキャンセル待ちが多く利用者さんにご迷惑をおかけしている状態です。職員、学生アルバイトを随時募集しています。子供と元気いっぱい遊んでくれる方、福祉に興味がある方、ぜひ二番館に連絡をください（青山）。



ハロハロ二番館

所在地：山梨市東後屋敷566-5

スタッフ募集に興味のある方は

0553-34-9200（人事 佐野まで）

三富福社会理事長

山西 孝

理事長より



福祉と政治について

政治について公の場で話すときと差しさわりがあるので避けた方が良くとされています。しかし高市旋風が吹いて流れが一変したので書かすにはいられません。結論から言うと、ちょっと期待しています。まあ、気軽に書いているので炎上しないように願います。

自分が学生時代の昭和後半にはリベラルがかっこよくて保守は年寄りじみているイメージでした。大学入試は安田講堂事件で東京大学が入学試験を行わなかった年でした。友達が全学連の集会に誘ってくれたので参加したら安保反対の集会でした。多くの学生が日本に革命を起こすことを本気で考えていると思いました。

そんな時代であったので、学生仲間で自民党を支持すると言ったら袋たたきにあうような時代でした。ところが今回の衆議院選挙では若者が自民党の高市さんを推しているようです。これが高市旋風らしいのです。何がそうさせたのでしょうか。

関心を待たなければいけないのは、国の予算が障害福祉にどれだけ割かれるかです。厚労省は支援費制度が始まった2003年から比べたら膨大に増えていると言っています。過去19年（2007年から）で4倍になった資料も示しています。しかしOECDのデータによれば、日本の障害福祉予算は加盟国中で低水準であることが分かります。以前に厚労省の障害福祉課長にこの話をしたら、これ以上障害福祉予算を増やすには「国会議員を替えてくれ」と言われました。

まずは財務省の考えを変えさせないといけません。国債発行は国民の借金だという嘘をついていたのは財務省です。積極財政によって障害者福祉予算を増やすべきです。日本のGDPを増やす政策をとることが前提です。

若者は気が付いたのかもしれませんが、日本のリベラル左翼は緊縮財政派であり親中国な人が多いことを。新聞テレビ会社の幹部たちは私と同年代の学生運動を繰り広げていた人たちでリベラル左翼の人が多いのではないのでしょうか。NHKをはじめ朝日新聞、TBSの高市排除の報道は目に余りました。以前ですと国民は報道をうのみにしていました。現在ではSNSがテレビ新聞では報道しない事実が拡散されるようになりました。SNSに嘘やデマ、誹謗中傷が多いことは事実です。若者たちは百も承知です。

障害者福祉には国にお金がないから出せないと言っていた財務省は嘘を言っていたのかもしれない。気が付いたら、給料の半分近い額が税金と健康保険料等に差し引かれるのは止めてもらいたいです。

我が法人の理念は「その人らしく生きることを支援する」です。日本人の大多数が自分らしく生きているのでしょうか。障害がある人は「その人らしく生きる」ことが困難な環境に生きています。環境を整えるにはお金が必要です。必要な人が必要なだけ福祉サービスが使える世の中にしてください。当選した衆議院議員へのメッセージです。

令和6年度に強度行動障害者支援の人材育成として国立のぞみの園にて「中核的人材養成研修」が行われ、当法人から一名が受講・修了しています。今年度は中核人材者が法人の各事業所を訪問し、強度行動障害者支援を適切なチーム支援で実施できるようサポートを行ってきました。

安心して挑戦できるチームへ 標準的支援を土台に

ハナモモ 平井健太郎

「中核的人材」とは、強度行動障害の状態にある方の支援強化を図るため、チーム支援を行う上で、適切なマネジメントを行い中心的な役割を果たす人材のことを言います。

私は、支援の質を高め、職員一人ひとりが安心して働ける環境づくりに取り組んでいます。中核的人材とは、現場と法人をつなぎ、支援・人材・仕組みを支える存在です。さらに、県や関係機関と連携しながら、地域事業所の支援力向上にも貢献しています。

令和7年度は法人内の各事業所を訪問し、「支援の整理」、「職員への助言」、「環境や仕組みの見直し」、「チームづくりの支援」などを行いました。また、私自身が「広域的人材集中的支援モデル事業」や「強度行動障害支援者養成研修」に参画し、県事業で得た知見や最新の動向を日々の現場支援に活かしています。研修・スーパーバイズ・OJTを通して、「教える」のではなく「一緒に考え、育つ」ことを大切にしています。理論と実践を結びつけた、現場に根ざした人材の育成に向けて努めたいと思っています。中核的人材が関わることで、支援の質の安定、職員の不安軽減、課題の早期発見、県の方針の現場反映、地域からの信頼向上につながり、利用者さんの安心と満足度の向上にも結びつくと考えます。



研修で理論的なお話をしながら、理論と実践を結ぶための役割も担っています



現場の支援者から直接利用者さんのお話をうかがい、法人全体の支援力UPを目指しています

事業所を訪問し、支援を現場のチームで整えているようお話をしています



私が目指しているのは、相談できる、抱え込まない、成長を実感できる、安心して挑戦できる法人づくりです。今後も県や関係機関と連携しながら、地域全体の支援力向上に取り組んでいきます。これからも、現場・法人・地域をつなぐ架け橋として、学び続け、支え続けていきたいと思えます。



服部所長の！

あれこれ大事な話

2月13日に強度行動障害支援者養成研修“フォローアップ研修”を行い、山梨大学准教授 松下 浩之先生をお招きし“機能的アセスメント”についての講義・演習をして頂きました。この分野は私も以前から興味関心が高く、自分なりに勉強してきました。応用行動分析学、人の行動の理由を考える時、結果からアプローチして行動の持つ意味（機能）を見極めていく考え方になります。

言葉にすると難しいですが、私達が生活を送る上で行っている行動、特に繰り返し続けている行動は、その行動を行う事で自分にとってメリットがある、若しくはその行動を行う事で自分にとってのデメリットが無くなるから続けているのです。私が週3回“すき家”に通い続けているのは、美味しい牛丼が食べられ満足度が高い事（メリット出現）、注文して1分以内に食事が出てくる事（メリット出現）、500円でランチセット（牛丼+味噌汁）が食べられ、無駄遣いが無くなる（デメリット消失）…。今後も私が“すき家に行く”という行動は強化され続けると考えられます（更に現在は50円割引クーポンが貰え（メリット出現）…少しくどいかな…(´-`)

意識的に応用していくと自分自身の行動を変えていく事が可能となります。やらなければならないのにもどうしても続かない事があるとしたら、その行動をした60秒以内に強化する事が有効！（即時強化！）つまりその行動をした後に自分自身に何らかのご褒美を与える事を続けると、その行動を定着させる事が出来る可能性が高まる事に繋がります（この方法で私は健康ダイエットに成功しました(´-`)）。

気が付いている方も多いと思いますが、私の仕事着はほぼ季節で決まっている。同じ店で同じ洋服を一定数購入して着回しています。“出勤日の朝、着る服を考える”事は私にとってはデメリットでしかない為、この行動は今後も続いていくはず。しかし休日に“着る服を選ぶ”事は私にとってデメリットではなく、着る服を楽しんで選んでいます！！ 価値観は人それぞれ、それも時と場合によって大事にしている事も変わります。私達の目の前にいる利用者さんにとって大事な事を諦めずに探求していきましょうね！ 行動には意味がある！！ 特に続けている行動には… 忍



第5金曜特別枠

法人全体研修を行いました！！



1月30日(金)に山梨市民会館にて、2025年度 虐待防止研修を行いました。

『困っているのはご本人！あらためて自分たちの支援を振り返ろう！！』をテーマに、以前職員全員で行ったセルフチェックシートの振り返りを行い、講義を通して自分たちの支援を考え直すことができました。そして、私たち職員が利用者さんと過ごす時間の一部を切り取り、ロールプレイを取り入れながら、グループで話し合いました。

言葉で気持ちの表現をすることが難しい方のその時の心の声を、私たちはどこまで汲み取りながら一緒に過ごせているのか、用者さんの想いや背景を考えて支援できているのか、考えることは絶えませんでした。

私たち、三富福祉会の職員が目指す支援は、『その人らしく生きる事を支援する』こと。それにはまず、ご本人をよく知ること。知らないことで虐待に繋がってしまうこともある事も講義の中で学びました。この研修を受けたことで、虐待防止研修の必要性和自分自身の振り返りができました。学んだこと、考えたことがまた明日からのよりよい支援に繋がればいいと感じます。

(三科)



グループホームの年末年始

それぞれのグループホームで年末年始にイベントや外出を行いました！

いるとこホーム・しらかばホームで行われたクリスマス会には、夕食後、サンタクロースに扮した職員が「メリークリスマス！」と参上し、プレゼントをお渡ししています。平時の夕食よりも賑やかでイベント感のある時間となりました。



ハナミズキホームでは年明けに個別外出も含めそれぞれで初詣に行きました。市内の神社で今年一年の幸せを願い、気持ち新たに一年の始まりを迎えています。

相談支援部のトーク 設立の年目 相談支援部のみなで語り合いました

吾妻 服部 相談支援部ではどのような支援を行っていますか？

「法人理念『その人らしく生きる事を支援する』この言葉を具現化するために、百人百通りのプラン作りを心掛けて日々働いています。その為に最も大事になるのがアセスメントです。本人のアセスメントだけでなく、環境・状況もアセスメントして、本人と環境・状況のミスマッチを解消していくのが相談支援の役割です！」

吾妻 小林 相談員としてのやり甲斐、印象的な場面はありますか？

「私は療育コーディネーターでお子さんと関わる事が多いので、お子さんの成長する時期に関われて嬉しいですよ。」

吾妻 日原 「その方の支援の輪作りをする過程で、さまざまな方と出会えることです。社会資源と繋がること、作ることも相談員として大切にしています」

「印象的な支援ですが、介護保険サービスでは難しいと思っていた当事者さんが、介護保険サービスと障害福祉サービスを併用して、希望である一人暮らしを継続出来ていくことです。これからもライフステージを見据えながら必要な方々、機関、サービスと繋がれるよう働きかけていきたいです」

吾妻 服部 服部所長から、相談支援についての想いを聞かせてください

「私達の仕事は幸せと一緒に作る事だと考えます。本人の幸せな表情は私達支援者も幸せにしてくれます。相談支援も現場の支援も相互エンパワメントです。互いに一緒に幸せになりたいですね」

吾妻 全員 最後にこれからの相談支援部の目標などを教えてください

「相談支援部の相談員は皆経験豊富です！（その分年齢層も高いですが）。目標は次世代の人材育成となります。法人内外問わず、支援の質を高めていく一助を担いたいと考えています！ 気軽に話しかけて相談してください！（相談されると嬉しいです！）」



人材開拓 project

管理部長（採用担当）

佐野 毅

ふくしのころ（その1）

福祉のしごとを志した方なら誰もが一度は耳にする「糸賀一雄氏」の「この子らを世の光に」というメッセージは人々に強烈なインパクトを与えるワードです。「この子らに・・・」という弱者救済の思想ではなく「この子らを・・・」という当事者主体の社会をめざす、という崇高な理念は、当事者のみならず多くの関係者に希望と勇気を与えてくれました。

私は学生時代にどうしてもこの「糸賀イズム」を直接体感したくて（時すでに糸賀氏は他界されておりましたが）滋賀県の「近江学園」を訪ね歩いたことがあります。その折に、糸賀一雄氏の同朋で糸賀イズムを引き継いだ「池田太郎氏」が創設された「信楽青年寮」も訪れて、ご高齢ながらまだお元気でいらした「池田太郎」氏から糸賀一雄氏の人となりを直接伺うことができました。（これは私の人生の中で、まさに奇跡的な出来事でした）

このときの経験は、その後の私の職業人生に大きな影響を与えたことは間違いありません。私はあと少しで定年を迎えて第一線を退くこととなりますが、後に続く皆様方に私が聴きかじった「糸賀イズム」をほんの少しでもお伝えしたくて、3回シリーズで糸賀イズムの伝承を投稿したいと思います。（つづく）



（信楽焼きのタヌキ）信楽青年寮のみなさんもタヌキの置き物を地元の方々と一緒に作っていました

後援会費について

令和7年度も当法人の取り組みにご理解を頂けるようでしたら後援会費と言う形でご貢献を賜りたいと存じます。

※後援会費の振り込み用紙を同封いたします。
皆様のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。（事務長 小田切）

職員募集（正社員、パート）

「生活支援員」、「介護ヘルパー」、「調理員」
資格不問、経験不問、勤務時間応相談
【お問い合わせ】

☎ 0553 (34) 9200（採用係）

編

集

後

記

三富福社会通信 Vol. 26 !!

法人全体で標準的支援の実践を目指し、今年度は何度かの全体研修と、中核的人材による訪問研修を行ってきました。ご本人らしい生活の実現に向け、その方を理解すること、そして生活環境を調整し安心できる場を用意することが私たち支援者の使命となっています。利用者さんと共に、笑顔溢れる毎日を過ごせるよう学びも深めていきたいと思ひます。（吾妻）

広報部委員：吾妻、青山、穂山、清水、中込、依田

☆表紙作品紹介☆

今年の干支は午年です。馬は「跳躍」「行動力」の象徴とされています。皆さんと共にパワフルに意欲的な一年にしていきたいと思ひます。これから多くの方の目に留まる印象深い作品を創っていきたく思ひます（丸山）。